

研修会報告

2023年2月18日

文責：小泉 照樹

研修会テーマ「2022年度宮臨技病理・細胞診部門研修会

～病理検査における医療安全と最近のトピック～」

開催日時 2023年2月18日（土） 13:00～16:00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 諸橋 彰

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員参加者 71 名 入会申請中会員 0 名 非会員 1 名 賛助会員 1 名 学生 0 名
合計 73 名

講演 1 「大腸癌における個別化治療とそのコンパニオン診断」

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 加藤 舞 先生

講演 2 「病理検査における医療安全の取り組み ～検体受付から報告書作成まで～」

国立病院機構仙台医療センター 神 大貴 技師

宮城県対がん協会 佐藤 しげみ 技師

講演 3 「報告書管理体制加算 ～その要件と課題～」

近畿大学奈良病院 若狭 朋子 先生

講演 4 「報告書管理体制加算に関する取り組み」

宮城県立こども病院 高崎 健司 技師

16:00 終了

内容

本会は、今年度の診療報酬改定により追加された「報告書管理体制加算」を中心とした病理検査における医療安全についての研修会を開催した。同時に病理技師として知っておくべき最近の大腸癌診断における病理検査関連のトピックについても触れた。

講演 1 ではロシュ・ダイアグノスティックス株式会社の加藤先生より大腸癌のコンパニオン診断に関して講演いただいた。大腸癌の診断においては、ミスマッチ修復タンパクや HER2 タンパクの免疫染色がコンパニオン診断として保険承認されるなど、診断のみならず治療に直結するような検査に関わる機会が増えている。病理検査に従事する臨床検査技師としては当然知っておくべき知識であり、今後関わる技師も増えていくであろう内容であった。講演内では実際の症例写真をたくさん提示いただき、参加者からは大変好評であった。

講演 2 では国立病院機構仙台医療センターの神技師と宮城県対がん協会の佐藤技師より自施設における病理検査室での医療安全について講演いただいた。神技師からは ISO15189

認定病院として、その要求事項に則った文書管理や作業管理、医療事故を未然に防ぐための対策などを紹介いただいた。また、佐藤技師からは検査センターでの医療安全として、受託検体が多い中での実際のヒヤリハット事例や対策、染色の管理、アナログな作業がもたらす問題点などが紹介された。参加者には共感する部分が多く日常業務を改善するための一助になったのではないだろうか。

講演 3 では近畿大学奈良病院の若狭先生より報告書管理体制加算について講演いただいた。診療報酬改定により本加算が追加になった経緯や認定を受けるための要件、実際に本加算を取得した施設での実例など幅広い内容であった。実際には認定を受けるには多くの要件があり、全てクリアするには大変な準備と労力が必要であると感じられた。参加者からは加算認定を受けるための要件についての質問などが挙がっていた。

講演 4 では宮城県立こども病院の高崎技師より自施設での報告書管理体制加算認定を取得する取り組みについて講演いただいた。認定要件をクリアするために行っている放射線部門との関わりなどの紹介があった。また、講演内では医療 DX にも触れられ、医療安全と医療 DX の関連についてもお話いただいた。

本研修会は日臨技認定更新指定研修会となっており、県内のみならず全国より多くの参加があった。Web 研修会という制限された空間ではあるが、全国どこからでも気軽に参加でき議論を交わすことができることは Web 開催の強みであると改めて感じられた。今後も技術的な内容に限らず幅広く学べる研修会を企画・開催できるよう努めたい。